

瀬下 岳さん（広島大大学院国際協力研究科）
2019年度2次隊 青年海外協力隊
派遣国：ザンビア 職種：小学校教育
2020年12月27日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

「なぜ」問う授業心掛け

「こんな状況でも真剣に勉強に取り組んでいる。なんとか力になりたい」。写真にあるような、きゅうくつな教室を見て思った。

アフリカ大陸の南部に位置し、日本のほぼ2倍の国土に約1700万人が暮らすザンビア。そこで海外協力隊、小学校教育隊員として「算数教育の質の向上」を目指し活動してきた。

配属先のムオンバ初等学校は首都ルサカ近郊にある、全校児童約2400人の3部制（朝昼夕）の学校である。私は小6

に算数を教え、今は広島大大学院国際協力研究科で、ザンビアの算数の研究を続けている。

途上国では「板書を書き写し覚えさせるだけの指導」という課題がある。ザンビアも例外ではなかった。そこで、子どもたちに「Why」や「How」と問い、なぜそうなったのか、どうやって計算したのかななどを考えさせることを意識して授業をした。その過程で解き方を見ると、足し算や引き算などの四則計算において、棒を書いて数えて計算する児童が大多数であることに気付いた。

今行っている研究では、自然数（整数）と小数の四則計算を中心に計算方法に着目し、今後のザンビアの算数教育の改善のための示唆を得たいと考えている。現在は新型コロナウイルスの影響により一時帰国しているが、子どもの算数の学力を高め、苦手意識を減らしたいとの気持ちは変わらない。ザンビアに戻れた際は、研究で明らかになった問題点や解決策を生かして活動したい。



きゅうくつな教室で授業を受ける児童